

# くまもとの街とともに100年。 これからも一緒に。

熊本市電は大正13(1924)年8月1日に開業し、多くの方に支えられながら、今日まで走り続けてきました。

8月号では100年の歴史を振り返るとともに、次なる100年を見据えた市電のビジョン、そして開業100周年記念事業についてご紹介します。

## 熊本市電100年の歩み

### 大正13(1924)年8月1日 開業

開業時の路線は熊本駅前～花畑町～水道町～浄行寺町と、水道町～水前寺でした。開業初日は花電車2両が運行され、市内で多くの催し物が開催されるとともに3万人以上が乗車。電停に電車が到着するたびに多くの人々が乗り込み、車内は身動きが取れませんでした。それでも乗りたい人は窓に腰掛けたり、バンパーの上に立って乗車。「お急ぎの方はお歩きください」が流行語になりました。



市電開業花電車(絵葉書)



### 昭和3(1928)年～ 路線の延長と戦争突入

開業から4年後となる昭和3(1928)年3月には、新たな路線で運行がスタート。その後ニーズの高まりもあり、次々と路線が延長されました。やがて日本の軍国化が進み戦争状態に突入すると、徴兵や軍需工場徴用で男子乗務員が不足。市電では女性の車掌や運転士が登場し貴重な戦力となりました。



新市街交差点の雑踏(絵葉書より)



### 昭和32(1957)年～ 最盛期

市内交通の主役となった市電は、昭和32(1957)年度には一日平均乗客数が10万人の大台を突破。昭和34(1959)年12月には田崎線も開通して、営業路線長は25.0kmにまで達しました。

しかし国内は高度経済成長の時期でもあったため、人件費の高騰、諸物価の急上昇、マイカーの増加などの社会的な事情により徐々に市電の地位が揺らいでしまいました。



最盛期の熊本駅前風景



交通渋滞が激しい浄行寺交差点(撮影:中村弘之氏)



### 昭和45(1970)年～ 忍耐期

マイカー増加の影響を受け雪だるま式に増える赤字に対応するため、不採算路線を廃止。一方で、朝のラッシュ時の積み残しに対応するため輸送力がある1000型連節車4編成を購入したり、日本の路面電車では初めての冷房車をメーカーと共同開発し導入するなど、ニーズに応じた高性能電車の導入で乗客増につなげてきました。



日本初の冷房路面電車



毎朝300人ほど出ている積み残しの解消につながった連節車



### 昭和57(1982)年～ 第1改革期

全国に先駆けて挑戦的な取り組みを行ってきた熊本市電。昭和57(1982)年には日本初の交流モーター車両を導入。さらに平成5(1993)年には、市電開業70周年記念事業としてレトロ調電車101号が登場しました。また、平成9(1997)年8月1日から、ドイツの技術を使用した超低床電車の運行を日本で初めて開始しました。



日本初の超低床電車導入



### 平成16(2004)年～ 第2改革期

市電開業80周年となる平成16(2004)年8月には、専用ホームページの運用を開始。平成29(2017)年3月にはパソコンやスマホで現在の市電の位置や系統別、車両の種別もわかる「熊本市電ナビ」の運用をスタート。さらに市電開業90周年を記念し、車両デザインの専門家である水戸岡鋭治さんが手がけた「COCORO」の運行が始まりました。



水戸岡鋭治さんがデザインを手がけたCOCORO



市役所庁舎前に行く開業当日の市電(撮影:西田三喜氏)